

## 第1回文化力が生きる京都推進審議会 開催概要

1 日時 令和7年1月22日（水）15時から16時

2 場所 京都ガーデンパレス 2階「鞍馬」

3 出席者 審議会委員15名出席（欠席5名）

### 4 議事要旨

- ・金田会長を選出
- ・金田会長が議事進行
- ・報告事項について事務局から説明
- ・審議事項について意見交換  
文化が生きる京都の推進に関する条例に基づく基本的な指針の方向性について

### 5 主な意見等

- ・「個」については、個性という表現であれば理解はしやすいが、個人の印象もあるため誤解がない工夫が必要と思う。「縁」「技」「心」「個」の4点についても今後、施策を検討する中で、検討していければと考える。
- ・基本指針の方向性は抽象的であり骨子としてはよいと思うが、もう少し具体的な方針を立てた方がよいと思う。
- ・伝統文化は、京都の宝であるが衰退しており危機的状況にある。文化によって京都は他の街にない付加価値を生み出している。他にないものを生み出す街は非常に強く繁栄するので、京都の伝統文化を再び繁栄させる集中的な政策を組み込む必要があると思う。
- ・「縁」「技」「心」「個」の4つのキーワードは良い言葉である。これらにより文化を感じる場の創出や、機会も含めて創出できればよいと思う。
- ・経済のためには訪日観光客をターゲットにすることも必要だが、京都府民や京都で学ぶ学生たちが、継続的に文化に触れられる場を創出することが必要と思う。
- ・伝統工芸の職人から行政の補助金等は、新規性を求められるため使いづらいと聞く。変わらないものにこそ意義があるという場合もあるので、継続を支える仕組みづくりも必要と思う。
- ・「縁」は、人と人との間、「技」は、手工業のこと、「心」が自分の心のことであるが「知」がないと思う。学ぶ、知る、考えるということも、基軸に置く方法もあるのではないかと思う。
- ・大学で京都の伝統文化に携わる方の講義を受けたが、興味深い話を聞いて関心を持った。学生に京都の文化を知り学ぶ機会を設けることが必要と思う。

- ・4つの方向性はこれでよく、具体的なものだけでなく、抽象的なものを取り上げていただいているところに価値があると思う。
- ・文化の継承教育は、取組を変えると、全く新しい展開ができるので、いろいろ伝え方を工夫いただければと思う。
- ・能は伝統芸能で古いものと言われるが、能の中には、自然との共生、五穀豊穡の祈り、平和の祈り、戦争を厭い、救われない魂を救うなどの精神性が含まれており、現代の私達にも大事なものを伝えている。
- ・古いものを保存するだけでなくそこにある価値を見出し、これからの人々にとって必要なものを創造していく方向性を持って文化の継承を目指せるようにしていただきたい。
- ・どの文化や伝統産業の分野でも精神性や意義や意味を理解し、興味を抱いてもらう仕掛けや取組を継続して行うことで、価値観を共有できれば、製作費用や、販売価格の理解が得られる。初めてお金を払う人がいることで、担い手が経済的に安定し、技術等が継承される仕組みが活きると思う。
- ・文化がなぜ必要かというところを、みんなが納得する形で表現できたら、もっとよいと思う。効率性による対価、コスパを求めてきた社会で、疲れ、病んでいる人が多いが、病んだ社会において対価、コスパと真逆の価値がある文化が必要。
- ・現代社会に足りてないもの、みんなが文化の価値を見出さないと充実した人生を送れないという気づきにつなげられれば、インパクトがあるものになると思う。
- ・指針の方向性については、本案で十分、記載されている。文章を考える事よりも具体的な施策が大事である。
- ・挙げられている施策はどれも素晴らしいが、その効果を如何に上げるかがポイントになる。そのためには、行政などほんの一部でしかなく、文化関係者、学校とか企業、府民の皆さんの文化活動をプレーヤーとすることの方が効果大きい。例えば、表彰では受賞者の関係者が盛り上がり、文化活動は元気になる。表彰以外でも「縁」「技」「心」の柱で情報を集めて、文化活動を元気づけるような知恵を出すのもあるのではないかと思う。
- ・すばらしいもののすばらしさを上手に伝えるのは簡単ではなく、伝え方が大切である。学校でも、同じ年齢で一人一人全く違い、各々の子供たちの状況に合わせて伝え方を工夫しなければいけないことを考えると、上手に伝えるための専門人材を育てる施策が必要であるように思う。
- ・「個」が地域文化を指しているのであれば、言葉を言い換えたほうがよいと思う。京都府は、南北に細長く各地の地域文化を生かす意味では、「個性」より「特色」という意

味で「色」はどうか。「色を出す」「色を活かす」という言い方でもよいと思う。

- ほとんどの人は、伝統文化に興味を持っているが表面的なところで満足し、深い部分まで探求する人は少ないので、伝統文化に最初に触れる時にどれだけ興味を持ってもらえるかが大事である。
- 京都の伝統と比べると新しいが、昭和23年に全国初の公立の音楽科として設立された堀川音楽高校によって、京都で育まれた洋楽も京都の文化といえる。
- 音楽の解釈が国によって異なるため、日本と異なる感覚を受け取る機会となる留学は学生にとって収穫が多く重要。
- 府内各地で行う音楽公演に卒業後の学生を出演させてはどうか。音楽文化の継承と地域振興にもつながる。
- 「縁」は、京都では広い人脈、例えば、祇園祭の山鉾でも、京都以外から大工さんとか来られるので広い結びつきといったことも考えられる。
- 「技」は、存在がなくなりつつある危機感があり、これからも京都の文化の基軸としていくためには、技の継承、人材育成等に取り組みねばならない。